

富山県沿岸における春季のスルメイカの群構造
～漁獲動向と漁獲物のサイズ組成等からその解明に挑む～

海洋資源課

主任研究員 北川 慎介

1 背景・ねらい

スルメイカは、富山県沿岸の重要な漁獲対象種で、12月～翌年6月（主漁期：1～3月）に、主に定置網で漁獲される。近年の傾向として、漁期後半（4～6月）の漁獲量がやや増加傾向にあるが、この時期に漁獲されるスルメイカの群構造については、これまでほとんど触れられてこなかった。本研究では、4～6月に県沿岸で漁獲されるスルメイカについて、漁獲動向と漁獲物のサイズ組成等を調査し、その群構造について考察を行う。

2 成果の概要

2014～2016年に富山県沿岸の定置網で漁獲されたスルメイカを県内の市場で測定し、旬別にまとめて外套長組成を求めたところ、4～6月は、外套長のモードが旬の進行とともに大きい方に移動する傾向が認められた（図1）。2016年4月12日に新湊沖の定置網で漁獲されたスルメイカのうち10個体について平衡石を採取して日周輪解析を行ったところ、推定ふ化時期は、9月中旬～11月上旬であった（図2）。

3 成果の活用面・留意点

成果は、スルメイカ資源の評価及び漁獲量変動要因を解明するうえで基礎データとして活用される。

推定ふ化時期については、標本数が少ないことに加え、年変動も考慮する必要があり、今後も解析を継続し、群構造の詳細を明らかにしたい。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課

担当：北川 慎介

TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

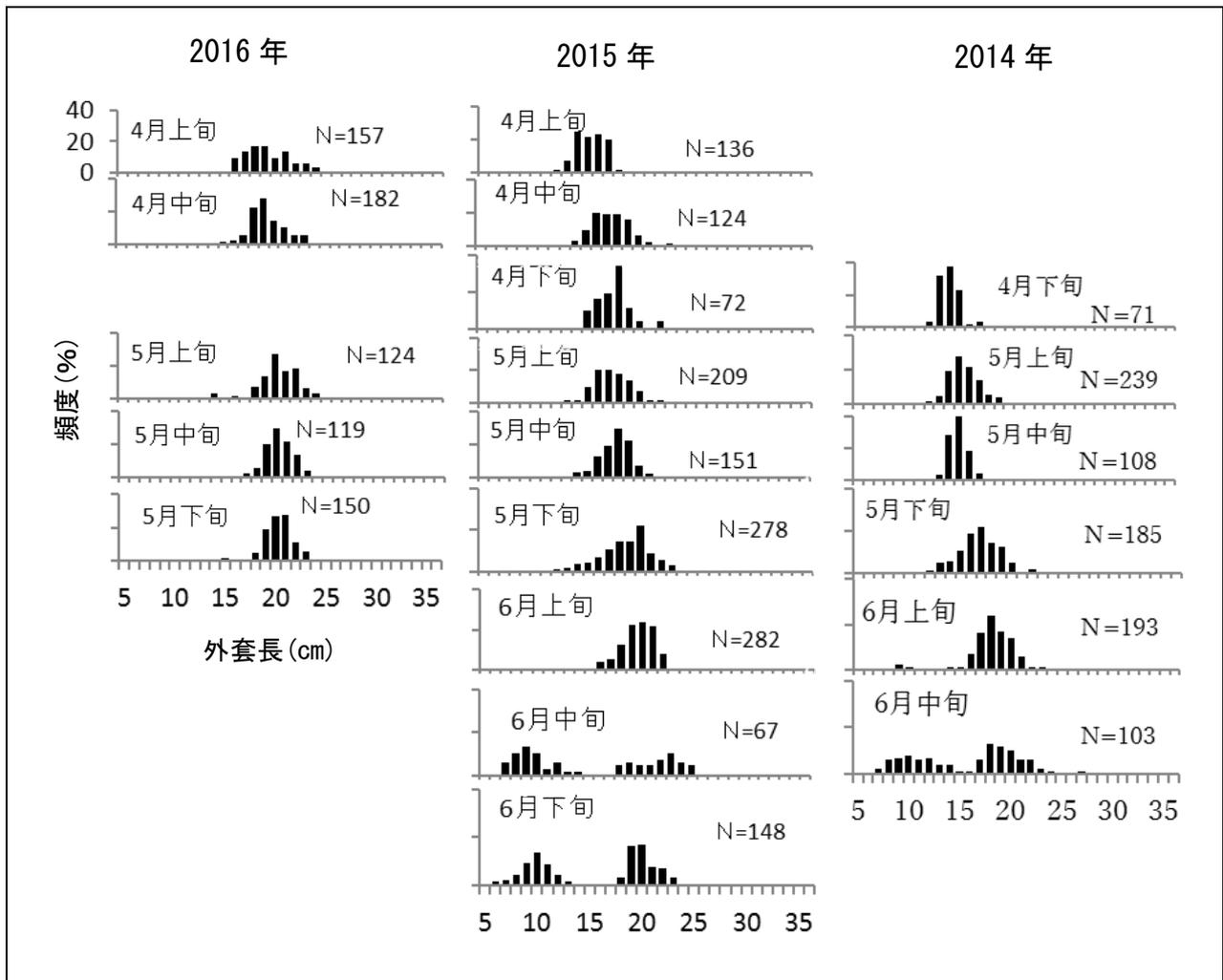


図1 富山県沿岸で漁獲されたスルメイカの旬別外套長組成 (2014~2016年)

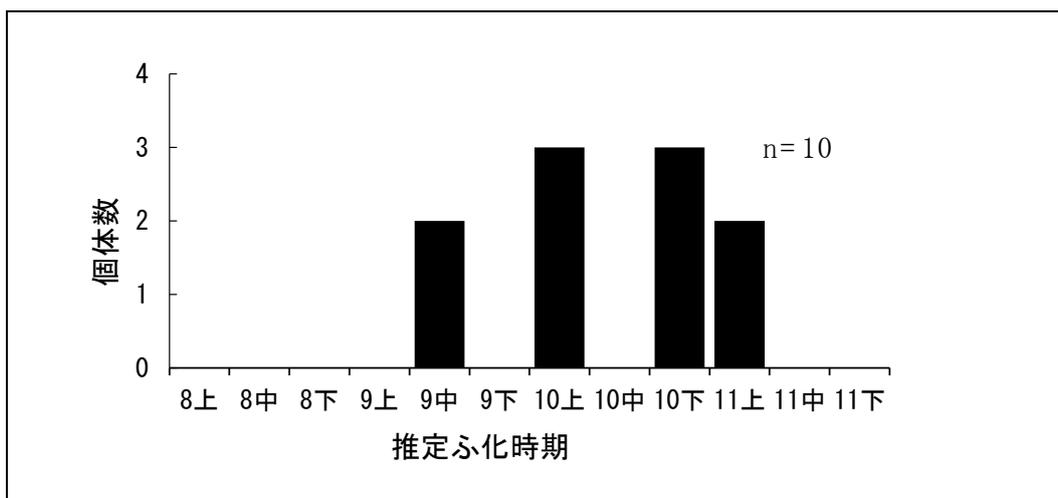


図2 2016年4月12日に新湊沖の定置網で漁獲されたスルメイカの推定ふ化時期